

FREE ^{JMUW} vol.34
Oct. 2018



SPECIAL FRONT INTERVIEW

THE RAMPAGE

from EXILE TRIBE

JAPAN MOVE UP WEST Special Event

JAPAN MOVE UP special edition vol.16

2018.9.28 PHOTO REPORT

SPECIAL GUEST
与那嶺 瑠唯 / 山本 彰吾
(THE RAMPAGE from EXILE TRIBE)

SPECIAL INTERVIEW

映画『ハーフェクトワールド 君といる奇跡』

岩田 剛典 × 杉咲 花

SPECIAL COLUMN

EXILE TETSUYA

EXILE

JAPAN MOVE UP WEST

日本を元気にする為に!

54
JAPAN MOVE UP WEST



自分の住む“まち”に夢、憧れ、成長を。

『JAPAN MOVE UP WEST』は子供たちに「夢」を、若者に「憧れ」を、社会人に更なる「成長」を与え続ける…
それが企業を、まちを、発展させ岡山から中四国へ、そして日本を元気にしていく事だと確信します。

JAPAN MOVE UP WEST 実行委員会 加盟企業一覧 (2018年10月11日現在)

City/LIGHT TYPEX co.,ltd. VERMORE Lee GROUP 株式会社 WORK SMILE LABO

KIRIN SAITO PRINTING CO., LTD. M&A 株式会社 笹山板金

株式会社 祥 株式会社DMM.com アシード株式会社

special partner コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社 イオンモール岡山

JAPAN MOVE UP WEST 賛同企業加盟・その他お問い合わせは右記まで JAPAN MOVE UP WEST 実行委員会事務局 (株式会社HEADLINE WEST / TEL:086-250-8089)

JAPAN MOVE UP WEST

●発行人/ 瀬 眞典 (株式会社HEADLINE WEST) 一木 広治 (株式会社ヘッドライン)
●発行所/ 株式会社HEADLINE WEST 〒700-0925 岡山県岡山市北区大元上町12-14 Leeビルディング1F TEL:086-250-8089

隔月刊誌【ジャンムーブアップウエスト】2018年10月11日発行 vol.34 October

※本誌の売買・交換(金品を代価とする譲渡)一切禁止。本誌または掲載内容のすべての著作権は発行元に準ずる。

HEADLINE WEST



THE RAMPAGE

FROM EXILE TRIBE

JAPAN MOVE UP WEST
SPECIAL FRONT INTERVIEW

9月に1stアルバム『THE RAMPAGE』をリリース。
それと同時に、来年念願のアリーナツアーの開催を発表したTHE RAMPAGE from EXILE TRIBE。
結成から今まで、ただただ走り続けてきた彼らは今、さらに大きく飛躍するのを迎えている。



THE RAMPAGEは今、さらに進化をしなければいけない時。

――1stアルバム『THE RAMPAGE』を9月12日にリリースしました。本作の感想などファンや作品を聴いた人たちのレスポンスは伝わってきていますか？

LIKIYA: 楽曲についてもそうですが、この作品にはTHE RAMPAGEの結成から4年間のドキュメントも収録されているので、僕らの姿やこれまでの活動を知ったうえで、楽曲を聴いていただいているのを感じます。結成から今まで自分たちがどんなことをしてきたのか、考えてきたのかを、楽曲と映像で聴いて、見て、感じていただけた。これによってまた、それぞれの曲がより意味のあるものになって、届いたらいいと思います。

RIKU: デビュー前から応援してくださっている方々はアルバムを待っていてくださったと思いますし、名刺代わりになる内容になったので自分たちをまだ知らなかった人たちにも聴いていただける作品になりましたし、「待っていました!」とうれしい声が伝わってきました。自分の周りの人たちからも「またひとつ夢が叶ったね」と声をかけてもらったりしたのもうれしかったです。このアルバムにはこれまでに発表してきた曲はもちろん、大切な思い出になっている初めてのツアーや、LIKIYAさんが言ったようなドキュメント映像も収めることができ、自分たちにとってすごく良い作品になったと思っています。なにより、みなさんに喜んでいただけたということが、メンバー一同うれしく思っています。

陣: これまでに共演させていただいた方やスタッフさんからは、「初めてのアルバムにしてベストアルバムみたい」と言われることが多いです。すべてのシングル楽曲が収録されていて、それぞれのミュージックビデオ、そしてドキュメント映像にライブ映像。最初のアルバムがここまでぎゅっと詰め込んだ内容になることってなかなかないと思います。47都道府県を巡ったホールツアー、アルバムリリースを経て、アリーナツアーと加速するTHE RAMPAGEの勢いまで詰め込まれている感じがしていて、次のシングルに期待を寄せていただける内容だと思います。この勢いを止めずにやっていきたいと思います。

――アルバムは、2枚組で、DISC 1が〈Downtown Side〉、DISC 2が〈Uptown Side〉の構成になっています。

吉野北人: 〈Downtown Side〉はTHE RAMPAGEの芯となる楽

曲、〈Uptown Side〉にはTHE RAMPAGEの幅を聴いていただけるような楽曲で構成しています。ファンの皆さんから自分の好きな曲を投票する企画を見たのですが、その反応を見て、良い意味で意外と偏りが無いと感じました。どちらのタイプの楽曲もそれぞれに「この曲がいい」という意見をいただけて、うれしかったです。それもある、もっと自分たちの代表曲と思っていただけるような楽曲を作りたい、沢山の方々に聴いてもらえるようなヒット曲を作りたい!と思いました。

――〈Downtown Side〉(Uptown Side)で印象が違うのでいろいろな聴き方もできそうです。

後藤拓磨: シーンによって聴き方が変わりますよね。〈Uptown Side〉には自分たちのなかでも初めてのバラードも入っていたりするので、しっとりとした気分の時や落ち着きたい時に聴いてもらえたらうれしいです。〈Downtown Side〉はアゲて行きたいとき……トレーニングの時とか自分のテンションに合ったシチュエーションで聴いていただきたいです。

――みなさんは完成した自分たちの作品を普段の生活のなかで聴きますか？

全員: かなり聴いていますね。

――例えば、どんなシーンで？

LIKIYA: 基本ジムで。聴くのは〈Downtown Side〉の曲です。

RIKU: 僕もジムですね。ジムに向かう途中に「DREAM YELL」「Dream On」を絶対聴いてテンションを上げます。トレーニングしている自分を応援してもらっているような気持ちになります。〈Downtown Side〉は、自分たちの軸になる音楽が収録されているのもあって、家を出る時にまず「Lightning」を聴いてスイッチを入れます。

武知海青: 1日1回「Only One」と「100degrees」を聴いちゃうんですよね。僕。「Only One」はトレーニングの後に、「100degrees」はジムに向かっているとき。THE RAMPAGEの曲を聴いて自分の気持ちをアゲたりクールダウンしたりしています。そのために

プレイリストを作ってあって、洋楽の楽曲のなかにTHE RAMPAGEの楽曲が入っています。

藤原樹: トレーニングもそうだし、家から駅まで歩きたくない時は曲を聴いて歩くようにしています。アルバムの中で流れができていたので「Lightning」や「HARD HIT」を聴くことが多いです。

与那嶺瑠唯: 聴く曲は時間帯でも変わりますよね。夜だと「Knocking Knocking」などのディープな曲を聴いて、朝やジムに行くときは「Lightning」や「HARD HIT」を聴いています。

長谷川慎: 僕は仕事やトレーニングの帰り道で「Only One」や「Over」を聴いています。

川村壱馬: この前、寝る前に「Over」を聴きました。頭のところにスピーカーを置いてあるのでそれを使って。でも聴いていると自然と体が動いちゃうんですね……(笑)。

吉野北人: 僕がTHE RAMPAGEを聴くのは歩くとき。この間、ランチに出掛けながら一通り聴いて。終わったら、好きな「Can't Say Goodbye」や「Over」を、また聴いたり。

龍: 僕も散歩中にアルバムを聴くことが多いです。気分転換したい時に聴いていますね。

浦川翔平: 僕も歩いているときに聴いています。スマホをスピーカーにして「LA FIESTA」や「New Jack Swing」をかけて歩くとはやく目的地にたどり着けるんです(笑)。

鈴木昂秀: 僕は「LA FIESTA」をお風呂場で聴くことが多いです。気持ちがいい曲だからつい体が動いちゃったり。そのまま、THE RAMPAGEのプレイリストで聞いていきます。

山本彰吾: 自分が聞くとときは2枚分一気に聴いてますね。『THE RAMPAGE』に限ったことではなくて、ひとつの作品は順番を変えずに最後まで聴きたい。この間も買い物に行った時にアルバム20曲全部聴きました。そのなかで自分の気持ちもアガって、クールダウンする。そのたびに、CD 1枚の力ってすごいと思わされます。





陣:僕は、ライブやイベントの前にTHE RAMPAGEの楽曲を聴くことが多いです。自分たちの楽曲への新鮮な気持ちを薄れさせたくないというか、ライブ直前に「100degrees」を聴いて、そのステージでのライブパフォーマンスをイメージしたりします。

岩谷翔吾:「100degrees」は現場に行きながら聴くことが多いですね。今日自分イケるかな?というときに「100degrees」とかを聴くと弱音を吐いてちゃいけないと奮い立たされるんです。

後藤拓磨:僕は落ち着いた曲のほうが奮い立つなあ。本番前は「Over」とか「Knocking Knocking」「Can't Say Goodbye」を聴いています。

神谷健太:その日の気分やシチュエーションで「Over」「Can't Say Goodbye」「Only One」を聴きますね。

――この1stアルバムのリリースと同時に、来年アリーナツアーも発表されました。アリーナツアーは念願だったと思いますが、決まった時にはどんな気持ちでしたか?

川村竜馬:率直に、めちゃくちゃうれしかったです。ただ、アリーナツアーが決まりはしたけど、47都道府県を回ってきたホールツアーで感じた熱と同じ熱を、規模の違うアリーナでやろうとするなら何十倍のパワーがいると思います。それをちゃんとやるためには、僕らはさらに進化をしなきゃいけない時なんだろうなって感じています。全国のホールを回って、アルバムをリリースして、アリーナツアーも決まって……THE RAMPAGEは勢いがあると言ってもらえることはよくありますし、実際、今の僕たちにはそれがあってもいいかな。でも走っている側としては、そういった意識がまったくなくて、「初心を忘れない意識で」というところまでにも至ってないし、何かしらの地点に至っているという意識がないから「ここからもっといけるかな」というよりも「まだまだだ」という感覚。だから、これまで通りに、とにかくいいものを、いいエンタテインメントを作っていきたいという思いです。

陣:EXILE TRIBEとしてアリーナをまわらせていただくんだという責任もありますね。デビューから数年でアリーナツアーに出られるってなかなかないことで、EXILE TRIBEの一員だから、LDHの

グループだからこそできるという面もあると思うんです。そのなかで、THE RAMPAGEだからアリーナを回れるんだ、これだけやってきたからアリーナのステージに立っているんだということが伝わるように、いま自分たちがやれることを探し、できることを最大限に引き出して臨みたいです。だから、THE RAMPAGEとしてはもちろん、メンバーそれぞれが自分のスキルやモチベーションを、アリーナツアーに向けて、最高点へと持っていく。それが今やるべきことなのかなと考えています。うれしいことにメンバー個々の活動も増えてきていますし、改めてTHE RAMPAGEというグループとしての力を、発信していきたいと思っています。

――すでにアリーナツアーの準備は始まっているのですか?

LIKIYA:具体的なことはまだですが、それぞれがアイデアを温めている状態です。食事の場所とかリラックスした場で、それぞれでこういうことをやりたいよなって話している。

陣:会議や畏まった場できなり意見を言うのって、すごく勇気があることでもあるので、メンバー同士で気楽にアイデアを話しあったりするようにしています。会議前にある程度アイデアをブラッシュアップできたりすると話しやすかったりもしますしね。

山本彰吾:16人いるので、アリーナ規模でやってこそ、THE RAMPAGEの可能性のすべてが見られる気がしています。大きな規模でツアーを回るとするのは未体験。その規模に対しての作りこみというのが待っていると思いますが楽しみです。アリーナで今の自分たちのパフォーマンスをTHE RAMPAGEのエンタテインメントとしてどう成立させていくか。照明や特効も力を貸してくれると思いますので、そこに自分たちのパフォーマンスが加わって、シンプルに相乗効果が得られるような構成にできたらいいですね。

LIKIYA:ライブを一番として考えているグループとして、どれだけ自分たちがパフォーマンス力を突き詰めて、ぶつかっていけるのか。ホールでは表現しきれなかったことにプラスアルファして、これまでアリーナを熱狂させてきたLDHのグループとはまた違ったTHE RAMPAGEならではの表現を追求していきたいですね。

――1stアルバムのリリース、アリーナツアーの決定。THE RAMPAGEはネクストチャプターへと向かっています。メンバーのドラマや映画の出演などグループ外活動もまた、THE RAMPAGEが成長するための挑戦だと思いませんか?

長谷川慎:『PRINCE OF LEGEND』(日本テレビ、毎週水曜24時59分〜)というドラマに出演させていただくんですが、王子が渋滞しているというキラキラ系の作品なんです。THE RAMPAGEのもつ雰囲気にはないタイプの作品だと思うので、出演するメンバーで、これまでTHE RAMPAGEを知っていただくチャンスがなかった方にもTHE RAMPAGEに少しでも興味を持っていただけるきっかけになったらいいねと話しています。

――すべては、THE RAMPAGEのためにということですね。

LIKIYA:ジュニアEXILE世代として、いろいろな事にトライし発信することで、先輩方にもTHE RAMPAGEはこういうグループだというものをお見せしたいですし、後輩グループに対しても新しい道を作ってそれを見せていくことが自分たちのやるべきことだと思っています。LDHの中間層になってきているので、底上げもしつつ、後輩にはいい背中を見せて、盛り上げていければと思います。気合は入っているのがガシガシやっけていきたいです。

――最後に読者にメッセージをいただけますか?

山本彰吾:岡山は素敵な街。ホールツアーで来たとき、メンバーも「温かい場所だね」って言ってくれました。岡山＝「晴れの国」でがんばっていると思うんですけど、今年は色々なことがありました。災害からの復興だったり、岡山だけじゃなくて全国で協力して取り組んでいかなければならないときだと思っています。まだまだ未熟ですけど、THE RAMPAGEが少しでもみなさんにパワーを与えられるグループになれるよう、EXILE魂を継承していると言われるようなグループになれるように信念を持って頑張りたいと思いますので温かい応援のほどよろしくお願ひいたします。

photography : 宗村 和磨 (NEMURA FILMS)

ジュニアEXILE世代として、ガシガシやっけていきたい!





Question For **LIKIYA**
 「THE RAMPAGEのメンバー全員で運動会をやるとしたら、どの競技に出場したいですか？」



Question For **陣**
 「メンバーの中で暴れだしたら止められない人は誰ですか？」



Question For **RIKU**
 「幸せだなあと思う瞬間はいつですか？」



Question For **神谷健太**
 「生まれ変わるならメンバーの誰になりたいですか？」

16 Questions for THE RAMPAGE 最高の16人へ16の質問

ファンの皆さんから募った質問を16人に聞いてきました！

Question For **岩谷翔吾**
 「メンバーに一番やめて欲しいことは？」

Question For **浦川翔平**
 「最近のRAMPAGE(暴れん坊)エピソードを知りたいです」

Question For **藤原樹**
 「アルバム『THE RAMPAGE』の収録曲のなかで、どの曲がお気に入りですか？」

Question For **武知海青**
 「来年の春アリーナツアーで、ひとつ目標を立てるとしたら何ですか？」





Question For **与那嶺瑠唯**

「好きな料理、またはおふくろの味を教えてください」



Question For **山本彰吾**

「ひとつだけ魔法が使えるとしたら何をしますか？」



Question For **川村壱馬**

「メンバーと二人旅に行くとしたら、誰と何処へ行きたいですか？」



Question For **吉野北人**

「16人で良かったなあって思うことは何ですか？」

Answer

気になる答えはコチラ!!
JAPAN MOVE UP WEST **WEB**

JAPAN MOVE UP WEST WEBをチェック!

JAPAN MOVE UP WEST



JAPAN MOVE UP WEST公式アプリでも配信! App Storeからダウンロード

MOVE UP



Question For **長谷川慎**
「THE RAMPAGEになって、自分のここが一番変わったと思うところはどこですか？」

Question For **龍**
「THE RAMPAGEのおかしなルールとかありますか？」

Question For **鈴木昂秀**
「テンションを上げていくときに、おすすめのTHE RAMPAGEの曲はなんですか？」

Question For **後藤拓磨**
「今までのMVで、一番大変だったシーンやパートはありますか？」



岩田 剛典 杉咲 花

SPECIAL INTERVIEW

映画『パーフェクトワールド 君といる奇跡』で“パーフェクト”な共演!

実在する車イスの建築士への取材をもとに、障がいと向き合う恋人たちや見守る人々の繊細な心の動きを飾ることなくリアルに、かつ真摯に描き、幅広い層から絶大な支持を得ている漫画『パーフェクトワールド』(有賀リエ/講談社「Kiss」連載中)を、注目のキャストで映画化。幼いころからの夢を叶え建築士として懸命に生きる主人公・鮎川樹役に、EXILE/三代目 J Soul Brothersのメンバーにして、役者としての活躍も目覚ましい岩田剛典。再会した樹のありのままを受け止め、全力で愛そうとするヒロイン川奈つぐみ役に『湯を沸かすほどの熱い愛』で数多くの賞を受賞した若手実力派を代表する女優・杉咲花。多くのオファーの中から本作を選んだ2人が、この「恋」に込めた思いとは—?

撮影・薦野裕 [岩田剛典] ヘアメイク・下川真矢/スタイリスト・jumbo (speedwheels)
[杉咲花] ヘアメイク・奥平正芳/スタイリスト・梅山弘子 (KIKI)

甘酸っぱい恋愛映画が多々ある中でも本作は、
命の物語の中で描かれる恋愛の形、
そういったものが表現できる、素晴らしい作品になると感じたんです。



出会った初日は互いに少し緊張していた、とやや照れながら振り返る岩田剛典と杉咲花。

岩田剛典(以下:岩田):『湯を沸かすほどの熱い愛』を拝見していたので、その印象が強くて、お会いした時も“あの女優さんだ!”と思いました。お互いに緊張していたこともあって、花ちゃんも最初は物静かな印象でした。現場に入ってからとは全然違いましたけど(笑)

杉咲花(以下:杉咲):私の岩田さんの印象は…まだ謎です(笑) 以前からテレビでEXILEや三代目 J Soul Brothersのメンバーとしての岩田さんを拝見していて、すごく男性らしいイメージがあったのですが、実際にお会いしてみると、すごく優しいので、また違った雰囲気というか。いつもテレビでグループとしてのご活躍を拝見していたので、1人の俳優としての岩田さんと向き合っ一緒にお芝居できるということが不思議で、ドキドキしていました。でも現場に入ったら、とても気さくに接していただいて。

岩田:最初に、カメラテストとかがあったんだよね。

杉咲:そこで少しお話ししましたね。

今回2人が演じるのは、ともに一途に相手を思うがゆえに、すれ違ってしまふ恋人たち。

岩田:僕が演じる鮎川樹は、夢半ばにして事故で障がいを負ってしまうのですが、それでも生きる目標だったり、残りの命の使い方と真摯に向き合っ、自分の人生を一步步前に進めようとしている青年です。同時に樹は、自分の周りの環境だったり、障がいを負った後に出会った人物に対して、どこかあきらめているフシがあるんですよ。そんな中で再会した杉咲さん演じるつぐみは、ハンディキャップを抜きにして、学生時代と変わらず、ありのままに接してくれる。そういうところが樹にとっては他の人とは違うわけですね。本当の意味での自分を見てくれるつぐみと、しだいに心を通わせ、好きになっていくんです。つぐみはとにかく真つすぐな女性で、そこが一番の魅力だと思います。

杉咲:つぐみは本当に一途で真つすぐで健気。とにかく樹のことを思い続けて、思ったことを衝動的に伝えてしまう。そんなところも含めて、私はつぐみのことを素敵だなと思っています。樹は相手を傷つけたくないからこそ距離を作ろうとするけど、それが樹にとっての正義だったのかもしれない。そういうところがちょっと不器用でいいなあと思います。

あるハブニングをきっかけに距離を縮めた樹とつぐみ。真つすぐなつぐみの思いを樹も受け止め、しだいに愛を育んでいく。しかし樹を支えながらインテリアデザイナーとしての仕事にも励むつぐみはある日、樹の目の前で倒れてしまう…。

岩田:あのシーンは原作の中でも印象的に描かれていて、僕も映画の中でも重要なシーンになると思っていて、その撮影の日が来るのを少しドキドキしながら待っていました。時間も限られたなか

人は一人では生きられないことを改めて感じました。

での撮影だったこともあり、普段は温和なスタッフたちもちょっとビリついた雰囲気を感じていたんですが、そんな中で花ちゃんがチョコを配ったりして場を和ませていて、さすがだなと思いました(笑)

杉咲:いえ、そんな(笑) 私は、撮影初日のシーンも思い出深いです。美術館で樹とデートしているシーンなんですけど、セリフが無くてアドリブ、しかも長回しの撮影だったんです。それが最初の撮影だったので、ちょっと緊張していたんですが、あのシーンのおかげでつぐみと樹の距離感も何となく分かった気がしましたし、セリフが無いからこそ自分の中から出てくるものを必死に探した瞬間が、とても特別な経験になったと思います。つぐみとして「私はこの絵が好き」みたいなことを話していましたね(笑)

岩田:「ここ、前から来たかったんだよね」とかね(笑)

樹とつぐみは樹の障がいについて、さまざまな困難と直面することになる。原作は実在する車イスの建築士・阿部一雄氏(一級建築士/阿部建設株式会社代表取締役)など車イスで生活をする人たちへの取材をもとに描かれており、本作でもセンシティブな現実や当事者たちの複雑な心境にも迫っている。

岩田:そこが、僕がこの役を演じたいと思った理由でもあるんです。甘酸っぱい恋愛映画が多々ある中でも本作は、命の物語の中で描かれる恋愛の形、そういったものが表現できる、素晴らしい作品になると感じました。これまで少女マンガはほとんど読んでこなかったんですけど、今回、原作も読ませていただいて。読み終わったときに「すっげえ、いい話だな」と思いました。読んでいてグッと来るものはありましたね。脚本を読んだときも、心から感動できる映画になるだろうなと思いました。

一方、杉咲が本作に引かれた理由は、樹をありのままに受け止めて恋をするつぐみの姿だった。

杉咲:つぐみは、車イス生活を送る樹に対して、樹がそういう状況であることを理由に悩むことがない。私はそこがすごく好きだったんです。そんなことよりも一心に樹が好きだから一緒にいたい。そういう彼女の思いが好きでした。

岩田:うん、分かる。

原作の名場面を、この2人が鮮烈に体現するシーンの数々は必見。

岩田:デートシーンの江の島ロケなどでも漫画で描かれているとおりの立ち位置で撮ったりしているんです。もちろん漫画と映画は別個の作品になりますけど、原作ファンにも愛してもらえる作品になるようスタッフも自分たちも意識していました。1シーン1シーンへのこだわりは、演じている僕らのモチベーションもすごく高まりますね。僕の場合は車イスバスケのシーンのために、実際に競技選手のチームに交じって体験させていただいたりもしました。練習する日を頂いたんですけど最初はけっこうドリブルしながら進むのが難しくて。そ

こそこできるようになるまで1日かかりました。チームの皆さんと試合前のウォーミングアップのメニューを全部こなしたり、ミニゲームでプレー体験もさせていただいて、撮影に支障がないくらいには動けるようになりました。

さまざまなことに気づかせてくれる樹とつぐみの恋。2人が本作から得たものとは。

岩田:障がいのある方々への自分の意識が変わったことが一つ大きなところかなと思います。街中でも見かけた時もサポートが必要そうだったらまずはお声がけしてみようと思ったり、パラリンピックなどのスポーツで頑張る選手の思いをもっと感じたいと思うようになりました。

杉咲:私は本作を通して、人は1人では生きられないこと、映画は1人では作れないことを改めて感じました。共演者やスタッフ、本作に関わってくださったすべての方、皆さん全員が良い作品を作りたいと思ったからこそできた映画だと思います。何より、岩田さんに本当に助けていただきました。ハードなスケジュールの中、ご自分もきついはずなのにいつも大丈夫?と声をかけてくださって。私にはもう岩田さんが樹にしか見えなくて。樹を演じたのが岩田さんだったからこそ、私も最後までつぐみを演じ切ることができたと思っています。

岩田:全部そうだよ。どのシーンも、つぐみが杉咲さんだったからこそ描けたと思います。

相手役として互いにパーフェクトだった2人。そんな2人が最近感じた「パーフェクトな瞬間」は?

岩田:最近、焼き肉屋で食べたシメの冷麺がマジ、パーフェクトでした。それまでの肉の油っこさをうち消して、さっぱりした気分を出すという…完璧ですよ(笑)

杉咲:いいですね! 私も食べ物なんですけど…韓国の大食いユーチューバーの人の動画を見て自分も食べたくなって、トッポギとヤンニョムチキンを作ったんです。すっごくおいしく、パーフェクトにできました(笑)!

最後に本作を楽しみにしている読者にメッセージを。

岩田:この作品には、障がいと向き合う一つの生き方が描かれています。本作を通して、もし自分や身近な人だったら自分はどう行動するだろうかと少しでも想像してもらえるような映画になっていたらいなと思います。重すぎず、真摯にそういう部分を伝えることができれば最高ですね。

杉咲:どんなことがあっても大切な相手を思い続ける…つぐみはそれだけで進んでいる人で、私にはそれがすごく輝いて見えました。そんなつぐみの姿から、大切なことを気づかせてもらえる作品になっているのではないかなと思います。



『パーフェクトワールド 君という奇跡』
監督:柴山健次 出演:岩田剛典、杉咲花他/1時間42分/配給:松竹、LDH PICTURES/
全国公開中 <http://perfectworld-movie.jp>
©2018「パーフェクトワールド」製作委員会



JAPAN MOVE UP - special edition vol.1 PHOTO REPORT

SPECIAL GUEST

与那嶺 瑠唯 / 山本 彰吾 (THE RAMPAGE from EXILE TRIBE)

9月28日、イオンモール岡山の未来ホールにてTHE RAMPAGE from EXILE TRIBEのパフォーマー、与那嶺瑠唯と山本彰吾を迎えたラジオ公開収録が行われ会場は多くの来場者で溢れかえった。

収録では来場者からの質問コーナーがあり、

「メンバーを桃太郎の登場人物に例えたらど岡山ならではの質問が出るなど、会場がムードに包まれた。岡山出身であるから「ただいまー!!」の声や、与那嶺瑠唯さんへの質問が続き、山本彰吾さんへの質問も多かった。おたのしみだったイベントとなった。



2018.9 THANK YOU for COMING



GIL/LIGHT

TYPEX co.,ltd.

VERMORE

Lee GROUP

株式会社 WORK SMILE LABO

KIRIN

SAITO PRINTING CO.,LTD.

株式会社 エムシーエム

株式会社 笹山板金

株式会社 祥

アシード株式会社

株式会社DMM.com

special part

photography : 宗村 和磨 (NEMURA FILMS)

Vol.16 -
PART

(THE RAMPAGE
by EXILE TRIBE)

「元気になると？」な
会場は和や
る山本彰吾
誰からも覚
えに盛り上

54

JAPAN MOVE UP WEST



9.28.fri WELCOMING OUR EVENT!!



Partner

コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社
イオンモール岡山



JAPAN MOVE UP supported by TOKYO HEADLINE

日本を元気に!! TOKYO FM (80.0MHz)
毎週土曜日 21:30~21:55

「日本を元気に!」をテーマに、毎回各界の著名人をゲストにお招きし、元気になるためのトークをしています。リスナーの方が思わず元気になれるトーク満載で、東京で絶賛放送中です。

<http://www.jfn.co.jp/moveup/> 今回の収録の様子は、Podcastにて
ノーカット版 配信中!!

STUDIO MOVE UP.



EVENT
REPORT
9.28 Fri

MOVE UP CLASS

KERU/RINA/MAKO/MIKU/HONOKA/KAZUHA/NOA/KOKORO/MIYU

KIDS CLASS

YUZUHA/UTAHA/MIZUHO/AYAME/KANON/AKANE/YOSHIKA/AYANO/HINA

ゲストも思わずうなる、堂々パフォーマンスを披露



9月28日、JAPAN MOVE UP -special edition vol.16-のオープニングアクトとしてSTUDIO MOVE UPのメンバーがパフォーマンスを行った。今回初ステージとなるKIDS CLASSではお揃いの衣装で登場。可愛くも息の合ったダンスで会場を和ませた。その後のMOVE UP CLASSでは当日公開収録のゲストであるTHE RAMPAGE from EXILE TRIBEの楽曲でパフォーマンス。キレがありエンターテインメント性のあるパフォーマンスでオープニングアクトを飾った。



受校生
大募集

あなたもスタジオムーブアップの一員になってイベントを盛り上げませんか？



KERU

お問い合わせ

お電話

086-250-8089 (平日13:00~18:00)

メール

info@japanmoveupwest.com 株式会社HEADLINE WEST

スタジオムーブアップでは
無料体験レッスン・見学も受付中です!!

スタジオムーブアップでは受校生を募集中です。初心者からダンス経験者まで幅広い生徒が在籍中!フェアレーン岡山の一階にあるスタジオで、日々猛特訓中!イベントの時にはオープニングアクトとして練習の成果を発表する舞台もご用意!ダンスが好きの方、体を動かすのが好きな方、是非私たちと一緒にイベントを盛り上げましょう!

久しぶりに、二日酔いで立てなくなるほどお酒をいただいてしまった TETSUYA です…。うれしいお酒ってどうしてあんなに進んでしまうのか？謎ですね(笑)。自分が EXILE になる少し前に踊っていたダンスグループで、久しぶりに集まって少々お酒をいただきました。そのグループは「RAG POUND」といいます。今僕はそこで踊っていませんが、現在でも精力的に活動している日本を代表する KRUMP 集団です。僕が踊っていたあの頃、KRUMP というダンスだったり、仲間から教わった事や感じた事があるからこそ、今の自分があるといっても過言ではなく、とても大切な時間でした。そんな「RAG POUND」の現在のメンバーと昔のメンバーが全員集まれば、そりゃ楽しいですね(笑)。立てなくなるほどのお酒は、逆に僕を奮い立たせてくれるエネルギーになりました。今月から始まる、EXILE のドームツアーに向けてさらに気合が入りましたし、準備も万端です！

先日、実際のステージを立てて、すべてのスタッフの皆さんとの合同リハーサルを行ったのですが、過去1番の順調な進み具合で、終始みんなの笑顔が見られるリハーサルでした。初日から、かなり完成度の高い SHOW をお届けできそうなので、チケットを手にしていただいた全

国の皆さん、ぜひ踊って歌って騒ぐ準備をして、楽しみに待っていてください！！

さて、そんなリハーサルの最中ですが、先月、岩手県釜石市に完成した釜石鵜住居復興スタジアムに「ダンスで日本を元気に！夢の課外授業 中学生 Rising Sun Project」で行ってきました。このスタジアムは、来年に日本で行われる、ラグビーワールドカップの会場として、建設されたのですが、この場所には、2011年まで学校がありました。しかし津波で流されてしまい、甚大な被害を受けてしまったのですが、その場所に“街のシンボル”ともいえるスタジアムが遂に完成しました。そのこけら落としとして、ラグビーの試合のハーフタイムの SHOW として、地元の中学生と一緒に、ライジングサンを踊る事ができて本当にうれしかったです！今回は236名の中学生と一緒に踊ったのですが、USAさんと僕の他にも、EXILE メンバーからケンチ、直己、岩ちゃんも駆け付けてくれて本当に素敵なダンスになりました！一生懸命に練習してくれた中学生たちが、大人になっても、この経験を誇らしく思ってもらえるように、自分たちもまだまだ頑張っていこうと改めてメンバーで誓った事は忘れません。

実は前の日の夜に、釜石市に到着した

のですが、ホテルに大浴場があったので、メンバーみんなと一緒に裸の付き合いをして、本番に向けて想いを1つにしました(笑)。いい夏の思い出ですね！

そんな素敵な思い出のある釜石に、またぜひ戻ってきたいですし、この先も本当の意味での復興が実現できるまで、「日本を元気に！」をテーマに継続していきたいと思いますので、引き続き、Rising Sun Project をよろしくお願い致します！

いろいろなステージや場所で踊れば踊るほどダンスって奥深いなぁと感じる今日この頃ですが、自分にしかできない表現を改めて考えさせられる出来事がありました。それは先日、「月刊 EXILE」の僕の個人企画である E.P.I. の対談での、車椅子ダンサーの神原健太さんとの出会いでした。その時に神原さんが、撮影現場でオリジナルダンスを披露してくださいました。EXILE の楽曲「STEP UP」に乗せられた、今までに見た事のない技や力強い表現力に心を打たれましたし、まさに神原さんにしかできないオリジナルダンスでした。

自分の身体の長所や、車椅子を駆使して、繰り出すダンスに、いま一度、僕自身が初心に返らされたといえますか、とにかく衝撃を受けたのです。ダンスを始めて2年足らずの神原さんが、なぜダン



スと出会い、リオのパラリンピックの閉会式でのパフォーマーに選ばれたのかなど、貴重なお話をたくさん聞く事ができましたし、いつか一緒に踊らせていただきたいなと心から思いました。ぜひ9月27日発売の「月刊 EXILE」の対談を見ていただけたらうれしいです。

EXILE のドームツアーに向けて、さまざまなインプットをして、自分と向き合うことができたので、今の自分のすべてを込めた、EXILE TETSUYA としてのオリジナルダンスを、全国の皆様にお届けしたいと思います！皆様、ぜひライブ会場でお会いしましょう！！

EXILE TETSUYA
TOKYO HEADLINE vol.710 より

19歳よりダンスを始め、EXILE PROFESSIONAL GYMにてインストラクターを務める。2007年に、二代目 J Soul Brothers のメンバーに抜擢され、2009年2月25日に、アルバム『J Soul Brothers』でメジャーデビューを果たす。そして、同年3月1日に EXILE 新メンバーとして加入し、2011年には、THE SECOND from EXILE としても活動を始める。また、個人活動として2011年に月刊 EXILE にて、自身が所長を務める『EXILE パフォーマンス研究所』の連載を開始する。2014年4月、淑徳大学人文学部表現学科の客員教授に就任する。そして、2015年4月に EXILE USA が活動を行っている DANCE EARTH PARTY の正式メンバーに選ばれる。2018年3月、早稲田大学大学院スポーツ科学研究科を卒業。そのほか、役者としてドラマや舞台に出演するなど、さまざまな活動を展開し、エンターテインメントの可能性を広げている。

JAPAN MOVE UP WEST PRESENT'S

MOVE UP MOVIE

powered by



人生が「アがる」作品を、あなたに。

芸術の秋到来!『ハッピーになれる映画』特集!

芸術の秋到来!だんだんと肌寒い季節がやってきましたが、
そんな夜長に観ると心が温まるような『ハッピーになれる映画』を特集!
笑って幸せを感じたり、泣いて幸せを感じたり、ハッピーな気持ちになれるタイミングは色々ありますが、
どれも鑑賞後に前向きな気分になれる映画ばかりを集めてみました。ぜひお楽しみください!



Title
恋はデジャ・ブ

Maker
ソニー・ピクチャーズエンタテインメント

Comment from TSUTAYA

『騙されたと思って観てほしい!』

ある日、同じ日を繰り返し体験していることに気づいた主人公が過去の経験を活かして色々なことをするのですが、次第に彼自身の心に変化が訪れていくのが素晴らしい作品。騙されたと思ってぜひみてもらいたい一本です。

© 1993 COLUMBIA PICTURES, INC. ALL RIGHTS RESERVED.



Title
ニューイヤーズ・イブ

Maker
ワーナー・ブラザーズ ホームエンターテイメント

Comment from TSUTAYA

『ハートウォーミングとはこのこと』

まず豪華スター達が揃ったのもすごいですが、それぞれが起こすちょっとした奇跡の数々が素敵。まだ新年は先ではありますが、観ている人にとって、みんなにとって良い日々を願いたくなる幸せな作品です。

© 2011 Warner Bros. Entertainment Inc.



Title
ローガン・ラッキー

Maker
ソニー・ピクチャーズエンタテインメント

Comment from TSUTAYA

『不運は幸運のはじまり?』

妻も仕事も失い、完全に運に見放された男がある強盗計画に最後の望みを託す...という一見サスペンスのようですが、実はコメディで最後にはみんなが笑顔になれる映画。さすがソダバーグ監督と思わず唸る傑作です!

© 2017 INCARCERATED INDUSTRIES INC. ALL RIGHTS RESERVED.



Title
パディントン2

Maker
ボニーキャニオン

Comment from TSUTAYA

『この映画を観ると優しくなれる』

人間の言葉を話す英国紳士のクマの物語。今作は脚本が本当に良くできていてテンポ抜群。楽しいし幸せな気持ちにさせてくれるのはもちろん、自分の世界だけでなく外の世界にも目を向ける大切さを学べる素晴らしい作品です。

© 2017 STUDIOCANAL S.A.S All Rights Reserved.



Title
きっと、うまくいく

Maker
ハピネット

Comment from TSUTAYA

『国は違えど、共感度No.1』

映画大国インドで当時歴代興行収入第1位を記録。抱腹絶倒のユーモアとシリアスさのブレンド具合が絶妙です。コメディでありながら社会に対するアンチテーゼもあり、ゆるすぎず真面目すぎずみんながハッピーになれる映画です!

© Vidhu Vinod Chopra Production 2009. All rights reserved.



Title
スクール・オブ・ロック

Maker
NBCユニバーサル・エンターテイメントジャパン

Comment from TSUTAYA

『ツライことがあっても元気になる!』

ミュージシャンでもあるジャック・ブラックが名門小学校で破天荒な偽物ロッカー教師を演じるコメディ。ジャック・ブラックの一挙手一投足がホントに楽しい。笑って元気になれて明日からも頑張ろう!と前向きになれる傑作!

TM & Copyright © 2003 by PARAMOUNT PICTURES. All Rights Reserved.

TM, ® & Copyright © 2004 by Paramount Pictures. All Rights Reserved.



Title

ワンダー 君は太陽

TSUTAYA限定レンタル

Maker カルチュア・パブリッシャーズ

Comment from TSUTAYA

『"やさしさ"はこの世界のワンダー』

外見からわかる先天性の障害がある少年オギーが、困難に立ち向かう姿を描くヒューマンドラマ。主人公の成長物語かと思いきや、あらゆる人々の視点から悩みや想いが描かれていて、行間に感じるそれぞれの優しさが胸をつく感動作。万人に観てもらいたい傑作です。

Wonder © 2017 Lions Gate Films Inc. and Participant Media, LLC and Walden Media, LLC. Artwork & Supplementary Materials © 2018 Lions Gate Entertainment Inc. All Rights Reserved.



01.チーム内でのニックネームは？

—— **こうた・こうた君**

02.周りからどんな人って言われる？

—— **優しい。(笑)**

あんまり怒らないからかな？

03.よく聴くアーティストや曲は？

—— **サカナクション**

“ミュージック” “夜の踊り子”

04.チームメイトの中で1日入れ替わるなら誰になって何をしたい？

—— **#11三村になって
ドリブルをしまくりたい!**

僕は、パスが得意な方なので真逆のプレーをしてみたい

05.オフの日の過ごし方は？

—— **映画鑑賞・温泉・カフェ**

基本的にのんびりと過ごしています。(笑)

06.仲の良いチームメイトは？

—— **#6 喜山です!**

よく一緒にご飯に行きます!

07.最近笑った出来事は？

—— **#5マグ**(増田選手)と**#19隼斗**(仲間選手)の

しょもないやりとりを見て笑ってます。

よく分からないけど面白いんです。(笑)

08.自分だけが知っているチームメイトの秘密を教えてください

—— プレー中の**#34カルロス**(デューク選手)は**熱い!!**

普段は温厚だけど、先輩にもしっかり言い返してる(笑)

09.最近ハマっていることは？

—— **テニスの試合を観る**

“CASA BRUTUS” 家の情報雑誌

インテリアとかリノベーションを見るのが好きです(笑)

10.デートで行きたい場所は？

—— デートでって訳じゃないけど岡山で行きたいところは

“吉備津神社” “閑谷学校”

“鬼ノ城”には行きました!

11.頑張った自分へのご褒美は？

—— 試合に勝った日に**炭酸飲料**を飲む!!

普段は飲まないのです!

あとは、たくさん買い物します!

素顔の上田選手に
11問 11答でお答えいただきました!!

上田康太 -うへだ こうた-1986年5月9日 174cm/67kg 東京都出身

ピッチでは華麗なパスでファジアーノ岡山を勝利へ導く上田選手。質問にも笑顔で楽しく答えていただきました! 果物全般が大好きで、果物を剥くのが得意という意外な可愛い一面も教えてくれました。オススメの映画は、前号の仲間選手が注目している人物であげていた“森崎ウィンさん”が出演している“レディプレイヤー”だそうです! とても面白いそうなので是非、観てみてください!

MF14

54 × 

JAPAN MOVE UP WEST

vol.4

上田康太

もっど!! インタビュー選手の素が見える!!
JMUW WEB限定

JAPAN MOVE UP WEST×ファジアーノ岡山

Please answer in 5 seconds!

5 5秒で答えて!

配信中!!

Vol.1まで配信(10月11日現在)

WEB限定プレゼントもあります! <https://www.japanmoveupwest.com>

選手のここで見える事の出来ない素顔を知って地元Jリーグチームを応援しよう!

photography : 宗村 和磨 (NEMURA FILMS) ©2017 F.O.S.C.

言葉は口に出さないと 伝わらない。 口に出して初めて 言葉になる。

玉川(以下、玉):Uessyが音楽を始めたキッカケを教えてください。

Uessy(以下、U):一番最初に音楽に触れたのは小学生。今現在は『シリアス・プランク』という名前で和風ロックバンドをしていて、ギターヴォーカル兼バンドリーダーをやらせてもらっています。バンドを組んだキッカケは歌を歌いたくなったこと。昔からドラムはしていたのですが、今まで自分自身が歌う、ということには全く縁がなくて。特別自分の歌に自信があるわけではなかったんですが(笑)人前で歌いたいと思ったことがキッカケでした。今のバンドメンバーのギター担当のちんちゃおは、当時僕が働いていた職場で出会ったんです。しかもベース担当のハイジ・ナカムラに関しては、ちんちゃおの実の兄弟。全てのタイミングが奇跡的に一致して、今のバンドの結成まで至りました。

玉:Uessyは夢を持つことや叶えることに対してどういう風に考えていますか?

U:夢って大きいものも、小さいものも全てひっくるめて夢だと思っています。今のバンドでもこの手で夢を掴むまで演り続けたい。でも叶えたい夢っていつでもどこでもそう簡単に手に入るものではない。だからこそ夢なのかなって思っています。この先、変わらずこの仲間と自分たちの音楽で食べていきたい。それが僕の、このバンドの夢ですね。

玉:ライブでの見所を教えてください。

U:僕らのライブの見所はとにかくMCが独特で、ステージ上が楽屋みたいになってしまうところ(笑)お前らそれ楽屋でしろよ!みたいなことを平気でメンバー全員がやってしまう。ファンの方を急に名指して呼んだりとかしていじったり(笑)締まっているのか締まっていないのかわからないくらいの雰囲気です(笑)でも逆にこういった部分をみんなに見て欲しい。やっぱり音源とライブも全然違うし。なので是非一度、ライブを見に来ていただきたいですね。もちろん僕たちが披露する楽曲たちも最強ですから。

玉:和風ロックバンド『シリアス・プランク』として目指したい場所は?

U:これからもっと活動の場が増えていけば、ライブだけでなくそれに向けた作詞作曲だったり、CD等のリリースだったり色々あると思うのですが、その当たり前の流れの中でも、とにかく独特で屈折しているような自分たちだけの立ち位置、みたいなものを確立していきたいですね。良い意味で変な立ち位置に存在していきたい。現時点でも結構な感じで屈折しちゃってますけど(笑)

玉:最後に、夢を追いかけている若い世代の人たちへメッセージをお願いします。

U:まずは挨拶、ですかね。おはよう、おやすみ、お疲れ様でした、ありがとう、ごめんなさい、日常の中で大切な言葉って沢山ありますけど、これが当たり前でできていないとやっぱりダメなのかなって思います。ステージ上でもどこでもそうですが、親や好きな人、友達や仲間にもちゃんと口に出して本当の気持ちを正直に言えることが大切。言葉って思っているだけじゃなくて、ちゃんと口に出して初めて言葉だと思っています。言葉のやりとりで相手にも敬意を払う。そうすると自然と自分や周りの考え方も変化してくる。そしてアーティストに見られたくて音楽をするのではなく真剣に音楽をやってアーティストとして周りから見られるように、認められるようになることが大切かなって思います。

和風ロックバンド『シリアス・プランク』

Uessy
うえしー



Uessy うえしー (写真右)
和風ロックバンド『シリアス・プランク』
ギターヴォーカル兼バンドリーダー
twitter: @seriousplanck

Interviewer 玉川 洋輔 (写真左)
シンガーソングライター
facebook・Twitter・Instagram:
玉川洋輔で検索



BAZ-K(以下、B)：上昇するアイテムにダルマを選んだ理由を教えてください。

緋田(以下、緋)：独立をした際に、以前の職場からの贈り物です。純粋に大切な物で、普段はお店に置いています。「初心を忘れず。謙虚に」という想いでダルマにしました。

B：外周りの営業から独立するのに焼肉屋をチョイスするってなんで？

緋：良く聞かれるんですけど。何か独立をしたいなと思っていて、その中で1つ焼肉の店舗を出したいというのはあった。できるか出来ないか分からないし、特にお肉のルートもなかった。岡山のお肉の会社全社に電話して交渉しました。最初は取引の量も少ない分高く、今は量も増え値段の交渉ができるようになりました。

B：「ひだや」へのこだわりは何ですか？

緋：とにかくお客さんに喜んでもらえるものを出そうと思ってます。原価とか特に考えずに、食べてもらいたい物。お客さんの反応を見て、よかったら出し続けていってそっから採算が合うように仕入れの交渉をしたりします。

B：タレにもこだわりってあるの？

緋：タレは、あっさりしたタレを最初は使ってたんですけど、質のいいお肉を食べてもらいたいの、さらっとしたタレで食べてもらいたい。

B：ひだやといえば“厚切りタン”とありますが、他に食べて欲しい物ってある？

緋：中級者にはハツや、青唐辛子のミノとかは自分が好きで出してます。青唐辛子のミノは色々試行錯誤して作りました。

B：各店舗のケアもしていかなきゃいけないということで、現場に立っている分、社長業とどうバランスとってる？

緋：社員と飲みに出てコミュニケーションをとっています。月に1回、店長さんやお店の責任者の人と二人で行きます。仕事の話はほとんどせず、目標の共有をしたり、僕の想いをすりつけたり。例えば、県外や海外にお店を出したら、海外旅行をしながら仕事ができるから楽しそうじゃない？ って話だったり夢の話をする。そうするためにはこういった事を心掛けていかんといけんよとか話したり。飲みの終盤の会話は遊びですよ(笑)

B：焼肉屋さんってすごく店舗が多いと思うんですけど、勝ち抜いていくために他と差別化しているところは？

緋：接客面ですかね。お店に行ったら元気になると思われる接客にも力をいれています。

B：接客を高めていくために何かしているの？

緋：社員研修をバイトさん含めてしたり、覆面調査に入ってもらったりしました。たまたま名古屋のS1グランプリ【その人に会いたい】という全国の大会で準優勝した女性の方に出会って、調査を依頼しました。3店舗をお客さんとして回り、細かく的確な結果を出してくれるんですが、その方はトイレを綺麗にしなさいって言うんです。ぱっと見たら綺麗なんですけどその方が見るとコンセントのホコリだとか排水溝の黒くなっている部分だとか…それを写真に撮って、大きく映像で見せられるんですよ。写真を見た時は結構ひきましたし、正直凹みましたね。画面で見るとこんなに汚いんだ、汚れていたんだなって。次の日に社員さん呼んで報告会をしました。

B：岡山に中々ない機会に本当に良い出会いだったんですね。

緋：そうですね。覆面調査をして特に社員さんは緊張感が出て変わってくれています。

B：今後の夢や目標はある？

緋：あまり他の業界というのは考えてなくて、焼肉屋で、今と全く同じお店を作り上げていって、良い会社を作ることです。多店舗展開をしながら皆で利益を生んだものをみんなに返していけるように。週休2日を目指していて、雇用条件と労働条件・福利厚生を他の飲食店と比べるのではなく、良い会社をみて真似たいです。

とにかくお客さんに
喜んでもらいたい。
採算はその後。

焼肉ひだや 代表取締役

緋田幸生

Hida Yukio



緋田幸生 Hida Yukio (写真左)
焼肉ひだや 代表取締役



Interviewer BAZ-K (写真右)
株式会社バズクリエーション代表取締役

どの大会でも優勝できる
 世界チャンピオンになりたい。



アグレッシブインラインスケート
 世界銀メダリスト

片山 昂

Katayama Noboru



Profile

片山 昂 Katayama Noboru

アグレッシブインラインスケーター

兄の影響でアグレッシブインラインスケートを始め、幼い頃から多くの大会に出場。

静岡市の東静岡アート&スポーツ/ヒロパで行われた全日本選手権であるJASPA 2017 PARK、GOLD STYLE 8thのキッズクラスで優勝、日本→2連覇の実績を持つ(当時小学6年生)。

また2018年4月、広島市で行われたアーバンスポーツの祭典、

世界大会であるFISE WORLD SERIES Hiroshima 2018では世界にも挑戦し見事銀メダリストに輝いた。現在13歳。

――上昇するアイテムをキャップに選んだ理由を教えてください。

片山昂(以下:片):プロの金島総一郎さんのサインと使っているスケートブーツメーカーの社長であるジョンフリオさんにサインを頂いたからです。金島総一郎さんは僕の目標であり、超えるべき人でもあります。被っていて気持ちのあがるアイテムです。

――アグレッシブインラインスケートを始めたきっかけを教えてください。

片:兄がやっていたので僕も始めたのがきっかけです。2歳頃から始めていて、物心ついたときから練習していた感じでした。4歳の時に初めてランプ(弧型の斜面)を滑れたときにすごく嬉しくて一気にのめり込みました。恐い技とかもあるのですが、出来た時の達成感が忘れられないです。

――印象に残っている大会はありますか。

片:小学6年生のとき『GOLD STYLE 8th』という全日本の大会で日本一になったことです。同い年のライバルもいて、全力で挑みました。決勝でライバルは綺麗にフルメイクして、僕はミスしてしまって、これは攻めた大技でないと思えてないと思えました。審査員が大技に立ち向かった姿勢や大技の成功の難易度を認めてくれてギリギリ勝てました。

――練習中や試合中に考えていることを教えてください。

片:難しい技とか、やっぱり恐いなとか思うんですけど、それを思ったらミスしたり失敗してしまうので僕は“絶対成功する”ことだけ考えてます。

――イベントなどでパフォーマンスするときの気持ちはどうでしょうか。

片:初めて見てくださる方も多いのでパフォーマンス中にミスをしてしまうとお客さんがびっくりして“あのスポーツ怖い”という印象を与えてしまいます。それだとパフォーマンスをしている意味がないのでミスしないことを一番意識しています。やっぱり“あのスポーツかっこいい!”とか“自分もやってみたい!”と思ってもらえるようにパフォーマンスしてます。

――今まで挫折したことはありましたか。

片:小学4年生の時に参加した大会で、勝てると思った相手に予選で負けてしまって、技も全然できなくて悔し泣きました。でもその大会中に他の方のプレイを見て、やっぱり自分も“ああいう技がしたい”と思い、立ち直ることができました。

――世界大会での反応はどうでしたか。

片:広島のFISE(『FISE Hiroshima 2018』世界最大規模のアーバンスポーツフェスティバル)ではやっぱり技が決まった時の盛り上がり方が違いました。本場が海外なので海外の方からも“君うまいね!”って褒めてもらい嬉しかったです。今回は広島開催だったけど実際に世界に出て海外の大会も出場したいです。

――全国から見てもアグレッシブインラインスケートの聖地と呼ばれている岡山はどんな場所ですか?


片:世界チャンピオンであり岡山出身の金島総一郎さんや東千尋さんの存在は大きいです。普段からどンドン教えてくれるので、皆もどンドン成長できます。上手い方がそばにいるという環境はありがたいです。プロの半分くらいは岡山の方なのでやっぱり岡山はすごいです。

――両親はどんな存在でしょうか。

片:自分がミスして痛がったりしてるときとか、ヤバそうな転び方した時とか“明日むち打ちにならないようにマッサージしてあげるよ”とか今まで沢山サポートしてくれているので“ありがとう”という気持ちです。

――今後の夢や目標を教えてください。

片:やっぱり、世界チャンピオンになることです。一つの大会でチャンピオンになっても、それはその大会でしかチャンピオンになってないので、“どの大会に出ても世界チャンピオンになれる”というのが目標です。2020年のオリンピックはアグレッシブインラインスケートが外れてしまったけど、その次のオリンピックで種目として実現になったら18歳でベストな年齢だと思うので金メダルを狙っていきます!



JAPAN MOVE UP WESTの更なる活動の浸透と広がりを実現するために、
より具体的かつ大胆に様々なジャンルの“Rise!〜上昇〜”をバックアップ。自身の心にある熱い想い、夢などを聞く。
Rise!の先には必ず人間の生きる意味、生まれてきた意味が見えてくると確信する。

JAPAN MOVE UP WEST



02 interview

Rise!
JAPAN MOVE UP WEST **NEXTER**

緋田 幸生

01 interview

Rise!
JAPAN MOVE UP WEST **STREET**

片山 昂

03 interview

Rise!
JAPAN MOVE UP WEST **ARTIST**

Uessy

FREE JMUW vol.34
Oct. 2018



JAPAN MOVE UP WEST

Rise! FRONT INTERVIEW-STREET-

片山 昂

Rise! INTERVIEW-NEXTER-

緋田 幸生

Rise! INTERVIEW-ARTIST-

Uessy

FAGIANO OKAYAMA

上田 康太